

## 中国社会学学会社会福祉研究専門委員会 2022年「東アジアフォーラム」での自由研究発表報告

久留米大学大学院  
許 東升

依然として新型コロナウイルスの影響が残る2022年12月27日、中国社会学学会社会福祉研究専門委員会と夏門大学公共事務学院が主催する2022年度の「東アジア社会福祉フォーラム」がオンラインで開催されました。大会のテーマは「東アジア国家：社会福祉の新たなチャンスと挑戦」です。今回は日本、中国、韓国の3カ国から50人程度の研究者の方々が参加され、活発な議論が交わされました。

当フォーラムでは、中国社会学学会社会福祉専門委員会理事長の彭華民教授、本学会副会長の金子光一教授を含めて5名（中国2名、日本2名、韓国1名）の報告者によるさまざまな視点からの貴重な研究発表が行われました。著名な先生方の中で、私のみ学生の身分での参加ということで、緊張致しました。

さて、私は深刻な認知症問題を抱えている日中両国においては、今後の専門的な認知症ケアの普及および認知症の人との共生社会の実現に向けて、次世代を担う若い専門人材を育成することが非常に重要であるとの視点から、「福祉学科学生の認知症の人に対する態度とイメージおよび知識の日中比較」というテーマで、日本語のパワーポイントを用いて、日本語で30分間の報告を行いました。報告後は、コメンテーターの高和栄教授（夏門大学）から私の発表に対して、「若者世代の認知症に対する理解を深め、認知症高齢者との共生社会の実現を目指していく上で、重要な意義のある研究である」という心強いコメントをいただき、今後の研究の励みになりました。

今回の発表は、若く未熟な研究者である私にとって、とても有意義な経験でした。また、母国での発表経験が少ない私に、このような貴重な発表機会を与えていただいた日本社会福祉学会および主催者の中国社会学学会社会福祉研究専門委員会に心より感謝を申し上げます。今後、福祉社会の発展に寄与できるよう自分の研究をさらに深めていくとともに、日中学術交流の促進に貢献したいと考えております。

最後に、さまざまな準備と調整にご尽力していただきました日本社会福祉学会の高宗さんをはじめとして、事務局の皆様にご心から御礼申し上げます。